


平成二十六年年度

がん川柳集

がん川柳五・七・五

がん患者の思いを川柳にのせて

独立行政法人 国立病院機構

 大分医療センター

もくじ

もくじ 1

刊行にあたって

がん川柳作品

患者様の句 11

家族の句 31

院長あいさつ 2

その他 37

副院長・連携室長あいさつ 3

がん患者の思いを川柳にのせて 42

緩和ケアチームリーダーあいさつ 4

終わりに 43

優秀作品 5

あなたの一旬を 45

刊行にあたって



院長 吉 豊 室

このたびは本小冊子が刊行の運びとなりました。当院では、がん相談支援センターが中心となり、二か月に一回「大分医療センターがんサロン」(以下「がんサロン」)を開催しています。がん患者や患者家族など、毎回十五〜二十人が集まり、体験談を語り、また悩みを分かち合い、そして医療者側からの講義や情報提供などで

充実したひとときを過ごしています。

日本人の二人に一人が、がんに罹る今、とかく暗くなりがちな”がん“への思いを川柳に託せばどうだろう、というところで川柳を募集しましたところ、全国津々浦々から百首を超える応募がありました。「がんサロン」で優秀作品表彰を行い、また多くを院内に掲示しましたが、あまりにも素晴らしい作品が多く、小冊子という形で残すこととしました。

多分この試みは本邦初であろうと思います。この小冊子を一人でも多くの方が手に取り、”がん“への思いを共有できることを祈念します。



副院長・連携室長
穴井秀明

現在、二人のうち一人はがんにかかると言われています。三十数年前、私が医者になりたての頃は、患者さんにご告知をしないのが一般的でした。私達は患者さんに面と向かって告知をする勇氣もなかったし、患者さんたちも医師から直接聞く勇氣もなかったことでしょう。しかし、それはそれで、それとなく婉曲的

に話をして、なんとなくわかっていただいていたのではないかと思っています。

ところが、最近、がんの告知はほぼ行われています。この時の患者さん、ご家族の方の気持ちはいかばかりであろうかと存じます。このがん川柳集の一句一句に、患者さん、そのご家族の皆さんが実際に感じた気持ち、怒り、やるせなさなどいろんな心境がにじみ出ています。けれど、そこから川柳流にほのかに明るい光も感じられます。どうぞご一読ください。



緩和ケアチームリーダー
米谷卓郎

「がん川柳」に百通もの応募を頂き、たいへんありがとうございます。がんと闘いながらもジョークで笑い飛ばしている句からは医療者である私たちが逆に元気を頂きましたし、大切な家族への思いをよせた句には思わずホロリとなりました。当院でがん診療を受ける患者さんも年々多くなっています。

私たちは緩和ケアチームとして、がんと向き合う患者さんの苦痛や気持ちのつらさを少しでも和らげることができるとように活動しています。その患者さん、御家族お一人お一人には、川柳で歌われているような深い気持ちがあるのだということを肝に銘じつつ、より近くから支えていけたらと思っています。今後も毎年この川柳集が発刊されることを切に願います。

優
秀
作
品

優秀作品賞

同意書を

ひたと見つめて

夜が明ける

星形ニンジン

● 作品者からのメッセージ

母の手術が決まったおりの心情を詠みました。悲しいかな家族といえども全く同じ心境になることは不可能ですが、「一生懸命悩んであげる。」「言葉はいらないから、ただ一生懸命寄り添ってあげる。」それこそが真の絆ではないかと改めて感じました。

優秀作品賞

大切な、

息子の命に

替えはなし。

菅元 忠利

● 作品者からのメッセージ

悪性の脳幹腫瘍によって遠くへ旅立った大切な息子の生命は二度とこの世には戻ってきません。生命に替えはないのです。

がん患者の皆さん頑張って下さい。家族の皆さん支え励ましてあげて下さい。最後にガン撲滅に頑張っておられる医療関係者の方々、更に精進を心からお祈り致します。

優秀作品賞

ばらばらの

家族を束に

した所見

中年やまめ

● 作品者からのメッセージ

所見には〇〇がんとありました。本人は勿論、家族にもこたえる病名でしたが、このときから家族の会話が増え、私の主夫業に熱がはいるなど嬉しい副作用もありました。家族の一体感が強くなった気がします。

優秀作品賞

告知受け

ひっそり書店で

遺言本

なんにも 仙人

● 作品者からのメッセージ

この句は癌の告知を受けて3日目に浮んだ句でした。糖尿等長年通院していた総合病院で、自ら依頼した「X線撮影」の結果だっただけに大ショック。失意の中で「遺言」ぐらいはとひとり本屋を彷徨さまよっていたのでしょう。今は治療に頑張ってます。

優秀作品賞

癌告知

ペンで書き足す

生命線

カズ

患者様の句

枕には

がんと闘う

ガムテープ

笑わせて

くれたらいいの

お見舞いは

川柳が

癌細胞を

食べてくれ

入院し

禁煙しては

癌撲滅

ホスピスに

朝日の席が

ひかりさす

アリス

笑うたび

がん細胞

消えていく

余命なし

言ってみたいな

先生に

沈黙が

思いを語る

母の愛しさ

マキ

癌消えて

生きて弾ける

ボランティア

さらば癌

再生の胃で

初詣

がん告知

十年日記

購入す

ゴーリキ

立ち向かへ

落ち込む暇が

有るならば

がん告知

ひとつごとのように

きく私

夢見るおばさん

同病と

知って心を

許す部屋

超うれしい！

やったぜ、消えたぜ

憎きがん

がん細胞

月夜ばかりと

思うなよ！

なんのガン

なんのこれしき

吹っ飛ばせ

わが友は

癌友として

生きている

指折りて

耐えたあの日や

忘れえぬ

内視鏡

心の思い

写せぬか

癒される

患部にあてた

もみじの手

北斗

きのうきよう

明日へりレーの

この生命

翔のんまな

もう既に

気持ちで癌に

勝っている

みぢんこ

良い医師と

強い意志とで

克服し

秋茄子

古希祝う

クラスに6名

がんファイター

府内太郎

生き過ぎて

嫌味受けてる

三途川

生き延びて

昔戦友

今ガン友

老虫

ホスピスで

子犬と共に

最期(とき)過ごす

泣き虫きのこ

告知する

勇気で人生

前向きに

豆助

この俺が

神の指名を

受けるとは

Ⓨ

よしやるぞ

あの子のために

一歩まえ

夢の中

手作りしたし

再いのち

イシダ

増えるなら

ガン細胞より

髪のもだ

胃ガン取り

我が人生は

金メダル

ガンもどき

ガンも、もどきも

食べつくせ

ひろたん

がんだって

先生たのむ

あたしの乳！

JUN

癌家系

祖母、父母、従姉妹

次は誰

くたくたわんちゃん

告示受け

肝が据わった

吾を見る

京のみっちゃん

癌病んで

癌と仲良く

十九年

おっぱいの

アッコのおはじき

百均で

青葉萌ゆ

がん患者

気持ち一つで

伸び縮み

とんちゃん

検査結果

生きてることが

癌だって

ぶちの白馬

がんと知り

読んだ書籍は

一メートル

がん発見

新たな自分も

発見す

ピノコ

前向きに

がん退治する

本の虫

雅号 PONS

励ましも

慰めもない

自然体

カトレア

泣き笑い

身内のような

ガン仲間

蒼い朱鷺

清水の

舞台に立って

聞くマーカ-

生麦小町

記憶より

記録に残ると

闘病記

ピロリ紫

同意書が

ポイント5倍

ならサイン

PETいづみ

抗癌剤

持ってけ泥棒

俺の髪

癌ダム

戦争を

生き抜き出会う

天寿がん

婚活難民

病床で

再認識の

“生きるコト”

川口たけし

癌細胞

誰に許可得て

芽を出した(？)

お兄ちゃん

手抜きせず

がんと仲良く

逆らわず

仁

おでんには

入れて欲しいな

がんもどき

木立慈雨

やめたいが

その自信なし

ガン保険

はらっぱ

命濃く

生きると朝の

陽に誓う

門坂 螢

生き方に

無理があるとき

がんになる

髪の毛は

女性にとって

命です

大和の雨蛙

一歩ずつ

信じて耐えて

治療の道

散歩

回りから

勇気をもらい

癌に克つ

ポシタロウ

スタッフと

手を携えて

がんばるぞ

生きる意味

がんになって

気づくよ

ドクターから

余命を聴かされ

霧の中

告知受け

終活思えど

手に付かず

なんにも仙人

がん告知

がんがらがんと

笑いとばし

木こり

突然の

電話がやはり

大当たり

もしかして

自分は夢の

中なのか

入院者A

タバコやめ

罹る肺がん

この野郎

禁煙五年目

癌になり

分かる自分の

幼さや

入院者B

癌ととも

暮らす自分の

愛おしさ

癌と一緒に

彼岸花

桜の頃を

思い出す

長期入院者



家族の句

ガンと言われ

共に寄り添い

前向きに

天国の

あなたの隣は

わたしです

エツウ

九十五

自然のままに

父看取る

失いし

我が子を思う

日々辛く

半数が

かかる病よと

なぐさめる

Ⓛ

手を握り

涙の海に

船出する

おおがちゃん

見舞い行き

患者の笑顔に

励まされ

ねこママ

がん告知

受けて父さん

寄席通い

ガンごとき

家族で支え

負けないよ

心地良い

達成感の

ある介護

なほばば

幸せは

あなたを支え

歩むこと

よかったね

早期発見

だいじようぶ

春爺

進ちゃん

末期がん

奇跡おこすと

母笑顔

手をつなぎ

寄り添うことで

強くなる

義姉ががん

初めてわかった

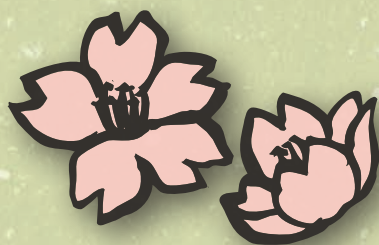
家族の思い

なんちゃってナース

手をあてて

あなたのいたみ

分かち合う



「
そ
の
他
」

ガンだって

早くみつけりゃ

こわくない

プラス志向

マイナスイオンで

癌予防

宅美

癌予防

笑顔笑顔の

毎日を

がんサロン

元氣と希望の

花が咲く

タニモト ヒロキ

今も在り

明日居(お)りて

皆笑顔？

ニンニクと

笑顔力で

やっつける

チャコ

おかげさま

ひよっとこ踊り

まだ翻ぶ気

山姥

がんよりも

罹りたくない

認知症

医更進

がんいずこかに

雲隠れ

がん予防

検診よりも

健診で

つらいとき

一人で悩んじゃダメよくダメダメ

みんなで話せばいいじゃないの

薬剤師その9

怖いがん

早く見つけりゃ

怖くない

てるてる味

がん保険

出番なくして

笑顔もれ

5年後に

元気な姿で

あいましよう

ドクター×××



を川柳にのせて～

○ RFL大分がんチャリティーイベント ○



～がん患者の思い

● 外来フロアにて作品展示 ●



● 優秀作品表彰式 (当院がんサロンにて) ●



おわりに

最後まで読んで頂きありがとうございます。各々のがん川柳を通じて、皆さんが何かを感じとってくれたのではないのでしょうか。

がん対策基本法の施行後、日本のがん対策がますます本格化する一方で、がんに対する偏見は少なからずまだ残存しています。また、がん拠点病院等のがん相談支援センターではがんサロンが定期的に開催されていますが、がん患者さんやがん患者さんを支えている家族が日頃の思いを表出する機会は文化的な背景からも多くはないでしょう。そのような中、がん患者さんやがん患者さんを支える家族・知人等が、がんにまつわるエピソードや日頃の思いを、五・七・五の十七音の形式の川柳に乗せて、感情表出を行い心のケアを行うことを目的とし、『がん川柳五・七・五』の活動を行いました。さらに、がん患者さん等の思いを乗せたがん川柳を地域・社会へ発信し、思いを共有することを目的としました。全国から集まったがん川柳を、

がんチャリティイベント『リレー・フォー・ライフ大分』で企画テントとして行ったり、当院の外来フロアやホームページ等で掲示をしたりと積極的に啓発活動を行いました。そしてこの度、皆さんから集まったがん川柳をできるだけ多くの方々の手元に取って頂きたいという思いで本冊子を刊行するに至りました。ただ『がん』という観点だけでなく、『生きる』『命』について触れる機会にも繋がる冊子になったのではないかと思います。

最後に、本冊子をつくるにあたり、ご支援して下さったがん川柳を応募してくれた方やがんサロンに参加してくれた方々、がん川柳に触れ共感してくれた方々、そして病院のスタッフ等に厚くお礼を申し上げます。

がん相談支援センター

ワンシヤルワーカー

岡江晃晃
看護師 廣田 紘子

あなたの一句を



日付 (/ /)

平成二十六年度

がん川柳集

がん川柳五・七・五

がん患者の思いを川柳にのせて

発行日 二〇一五年三月三十日

発行・編集 独立行政法人 国立病院機構

大分医療センター

大分市横田二丁目十一番四十五号
電話 〇九七―五九三―一一一

